授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2014 号

Skin advanced glycation end products as biomarkers of photosensitivity in schizophrenia

(皮膚終末糖化産物は統合失調症患者における光過敏性のバイオマーカーとなるか)

谷　恵梨子（たに　えりこ）

博士（医学）

論文内容の要旨

抗精神病薬の副作用として紫外線 A 波(UVA)に対する光線過敏性が知られているが、薬剤性の光線過敏性の病態はわかっていない。最近の研究でカルボニルストレスの終末糖化産物(AGEs)は統合失調症の病態と関連していることが判明している。本研究では皮膚終末糖化産物、光線過敏性と抗精神病薬の有無と内服量の関係を調べた。光線過敏性の評価は UVA に対する最小反応量(MRD)で行った。

14 人の統合失調症患者と 14 人の健常者がコントロールとして参加した。皮膚 AGEs を蛍光法を用いた AGE scanner で計測し、MRD の測定は UV-mate で計測を行った。

結果としては、皮膚 AGEs と 24 時間、48 時間、72 時間での MRD を計測し、統合失調症患者では光線過敏性が高値となっている傾向を示したが、統計学的な有意差は認めなかった。重回帰分析を用いたが、皮膚 AGEs に影響する要因は認めず、MRD は皮膚 AGEs に影響しないことがわかった。

抗精神病薬内服中の統合失調症患者における UVA に対する光線過敏性は抗精神病薬の内服量、皮膚 AGEs のどちらも影響しない。本研究の限界として、対象者数が少なったこと、軽症から中等度症の患者で抗精神病薬の内服が少なかったことが挙げられる。今回光線過敏性が亢進している傾向は認められたため、より大きな数、内服の多い重症患者での研究が必要である。